開催日　　3/16/2022

議事録

件名　　ﾌｧｯｼｮﾝﾋﾞｼﾞﾈｽ科　教育編成委員会ﾐｰﾃｨﾝｸ

日時	3/16/2022
場所	東京服飾専門学校（3階ホール1・2教室）　豊島区巣鴨1-19-7
出席者	株式会社アズノウアズ　人事・総務部マネージャー　中村　潤様 株式会社ステップス　常務取締役 採用教育部長　塚田龍一様 有限会社ビーシーコスチューム　代表取締役　太田えりこ様 株式会社クレヨン　営業本部人事部マネージャー　山田 雄祐様（都合により欠席） ソーイングアサヒ株式会社　代表取締役　髙橋英一朗様（都合により欠席） 一般社団法人　日本アパレル・ファッション産業協会　境泰志様（都合により欠
欠席者	3名
概要	1.次年度における学科カリキュラムの編成、留意点について検討。 2.次年度における産学連携、職業実践体験プログラムの実施内容調整
内　容	開会の挨拶 ◆理事長よりご挨拶 「新型コロナ感染下ではありますが、入学志願者は依然として好調です。就職難の対策として、昨年度に引き続き研究生制度を設け、就職しなかった卒業生が研究生としてそのまま学校に残り、就活の相談をしたり、研究会に参加したりしています。また現在、次世代教育の形態としてデジタルトランスフォーメーション（DX）化を進めています。オンラインによる非対面授業、デジタルツールを駆使した対面授業運営、プレゼンテーションと全ての授業で次世代のビジネス環境に沿った人材育成を行いたいと考えております。より一層の産学連携を図りたく今後ともご指導よろしくお願いいたします」 副田より進行を行う。久野先生を書記に指名。 ・教育課程編成委員会の学内位置付けと、教育内容向上へどう努力すべきか。 ・今回の教育編成委員会の目的と議事項目 1.産学連携企業からの意見・提案 アズノゥアズ 中村 ・座学中心だったので、大きな問題はなかった。 ・模擬面接はもう少しやりたかった（2回予定が1回になった）。「みんなの前で話すのは苦手だ」という学生はいたが、「やっておいてよかった」という学生からの反応があった。 ・スマホの影響で「無言で電話にでる、名乗らない」といったことが増えているため、固定電話の取り方と内線の回し方を実際の電話機で一人一回は行うようにした。 ・起業したい学生が多かったので、百貨店の出店条件や家賃などを講義した。起業を前提にアパレル企業に入社して経営を学ぶこともできると説明した ステップス　塚田 ・態度や常識、マナーなどを指導していく必要を感じる

内　容	・物事に挑む時の姿勢、企業との接し方を身につけておいたほうがいい。 ・学校によってはインターン、企業研修の際にクラスの中で選別する。または、産学連携は選択制にしてもいいのではないか。授業に対して温度差があるので、知りたい子に濃い内容で伝えてあげたほうがいい。 ・プレゼンの仕上がり具合は学生によって落差があった。 ・ECに興味がある学生は増えている。EC周辺の学習（写真、画像加工、販売員のSNS）は業界で通用することなので興味を持ってもらえるようにしたい 吉岡 ・産学の授業では、夏に冬物を扱ったり、学生が未知のブランドを着る、触れるの体験ができてよかった。 2.来年度カリキュラムについて アズノゥアズ　中村 ・面接やプレゼンはできているだろう。電話対応の練習もやりたい。 ・次の2年生に出店や起業などを教える場合、動機付けが難しい。 ステップス　塚田 ・過去には出荷作業、ZOZOバックオフィスを使って出荷作業を体験してもらったので、コロナの状況などが落ち着いたら、実践的な現場で作業を体験してもらいたい。しかし、人数をたくさん受け入れられないのが問題。また、他校から店舗に1～2名のインターンを受け入れ中。実践に近いものはそれくらい人数が限界であり、実際にお客さんがいる現場なので、問題のある学生は厳しい。 アズノゥアズ　中村 ・コロナでなければ会社見学会を行う予定だった。この学科の人数をどう迎えるか、限られた時間でどう回すかが問題だったので、外出の計画も難しかった。 3.DXへの取り組みについて アズノゥアズ　中村 ・オンラインだと関係性の構築が作りにくい。産学連携ではオンラインをやらなくていいのでは？店舗ではiPadを使っている。 ステップス　塚田 ・店舗をショールーム的に使う人も多いが、店舗に来る人はライブ感を楽しむ人が多い。ECと店舗の役割の違いは教えたほうがいい。 ・画像などに慣れすぎて、言葉にできない学生が多く、ボキャブラリーが少ない。「かわいい」だけで終わってしまう。 ・ガジェットの使い方よりも電話で名乗れない、メールで文書のやり取りできない学生が多いので、電話やメールの基本の使い方を教えたほうがいい。 ・出席のシステムはDXできないのか。

内　容	4.今後の展開について ・学科として取り組みたいこと ①学生マナーについて企業からのご意見をいただいたので、マナーの強化。 ② インターンシップの受け入れを連携企業にお願いしたい。 ③座学中心だったが、校外での学習を増やしたい。 ④ iPadを活用した授業内容の検討 5.総括 ・コロナ感染症の収束動向にもよるが、収束後をにらみ、店舗現場での就業体験プログラムの実施を含めた取り組みをしていきたい。 ・産学連携の授業を通して、学生のマナー、社会常識、コミュニケーション能力等を高め、就職活動にも役立たせたい。
添付資料	
決定事項	
課題事項	
次回日程	8/1/2022
特記事項	

	作成者
	副田